

「電線分野における環境効率の普及促進活動」で12月12日に日本環境効率フォーラムより環境効率アワード2008 普及促進部門 奨励賞を受賞しました。

<受賞理由>

- ・環境効率で電線業界をリードしている点が評価された。
- ・環境効率の普及の今後への期待。

<環境効率アワード2008>

日本環境効率フォーラムでは経済産業省の後援を受けて、平成17年度より環境効率アワードを創設しました。環境効率(eco-efficiency)の概念は経済性の向上を通じて環境負荷の削減を目指すためのもので、製品の機能・性能の向上や企業の財務パフォーマンスの向上と同時に環境負荷を削減する尺度であり、産業界の様々な場面で適用され始めています。このような状況を踏まえて、活用実績やその発展と普及に特に優れた成果をあげたと認められる企業等を表彰するものです。

表彰式は平成20年12月12日(金)、エコプロダクツ2008の会場(東京ビッグサイト)で行なわれました。JECTEC以外の表彰企業を下記に示します。

- 局長賞 富士ゼロックス株式会社
- 会長賞 東芝ライテック株式会社
積水化学工業株式会社
- 奨励賞 独立行政法人産業技術総合研究所
- 特別賞 株式会社チクマ
キヤノンファインテック株式会社
オムロン株式会社
積水化学工業株式会社

<JECTECの活動実績>

従来から JECTEC では電線の環境負荷の研究を行っており、さらに昨年度電線に適切な各種環境指標を評価し、報告書にまとめました。その中でCVTケーブル(日本の電線出荷量のうち約22%を占める)の導体をサイズアップした場合について環境負荷、価値を調査し、環境効率、ファクターを算出しました。例えば14mm²から38mm²にサイズアップした場合、ファクターが4.1になり、効果が非常に大きいことを立証しました。電線を負荷ととらえ、その環境効率を計算した世界初の例です。

さらに環境効率の考え方を導入した導体サイズ適正化の規格を検討中で、国際標準化まで進める方向で活動しています。それらの功績が評価されました。

<日本環境効率フォーラムについて>

日本環境効率フォーラム(会長:山本良一東京大学教授、事務局:(社)産業環境管理協会)は平成16年10月、経済産業省の支援を受け、企業、学識者等の参加を得て、環境効率の普及と実用化を目的として設立されました。現在、50社ほどの企業・研究所・大学が会員となっており、セミナーの開催、ワーキンググループ活動などを通じて、環境効率の実践を提案しています。



写真1 表彰式

- (右) 経済産業省 産業技術環境局
環境調査産業推進室 君塚室長
- (中央) 日本環境効率フォーラム 山本会長
(東京大学 生産技術研究所 教授)
- (左) 久米



写真2 表彰状

(環境技術G 久米主管研究員)